

平成19年度

# 病虫害発生予察特殊報(第5号)

平成19年12月18日  
神奈川県農業技術センター所長

病虫害名：ヤシオオオサゾウムシ  
*Rhynchophorus ferrugineus*

作物名：カナリーヤシ（フェニックス）

## 1 発生経過

- 平成19年10月に横須賀市在住の方より、横須賀市内の街路樹として植栽されているカナリーヤシ（フェニックス）からヤシオオオサゾウムシを採集したとの連絡を受けた。
- 農業技術センター病虫害防除部職員が現地を調査したところ、数本のカナリーヤシが枯れており、落下していた葉を解体したところ、食害痕と、幼虫及び繭を確認した。
- 採集した蛹より成虫が羽化し、ヤシオオオサゾウムシであることを確認した。ヤシオオオサゾウムシの被害は本県では初めての確認である。

## 2 形態および生態

- 形態  
オサゾウムシ科。大型種で成虫体長22～35mm。全体は光沢のある赤～暗褐色で、前胸背面に不規則な黒紋がある。卵は白色で、長さ2.5mm、幅1mmの長楕円形。幼虫は乳白色で無脚、円筒形で腹部中央部の背面が高く盛り上がる。終齢幼虫は体長50mmに達する。蛹は明褐色で、体長30～40mm。
- 生態  
成虫の寿命は3～5ヶ月と推定され、雌はその間に200～300卵をヤシ類の髄の中にばらばらに産み込む。幼虫は坑道を掘って髄を食害し、1～3ヶ月で6～10回の脱皮を繰り返して老熟する。老熟幼虫はヤシの繊維を繰り返して繭をつくって蛹化し、約1ヶ月の蛹期間を経て成虫が羽化する。多化性で、周年的に各ステージのものが見られる。
- 分布  
主にインド、東南アジア、ニューギニア等に広く分布しており、国内では1975年に沖縄県で初めて確認された。その後、岡山県('97)、宮崎県('98)、鹿児島県('99)、福岡県('00)、長崎・三重県('03)、熊本県('04)で確認されている。また、吉武ら(2001)の報告では、房総半島を東限とする年平均気温16℃以上の太平洋沿岸地域まで分布が可能と推定している。

## 3 被害及び寄主植物

- 被害  
幼虫がカナリーヤシの樹部に食入し加害する。食害は幹最上部の内部と比較的新しい葉の葉柄部分のいずれも柔らかい組織に集中し、食害痕と幼虫が食入した穴が多数見られる。寄生を受けたカナリーヤシは、幹最上部から上方に伸長する新葉がなくなり、残存する葉の量は、樹それぞれの被害の進行程度に応じて段階的に少なくなり、さらに下垂する傾向が見られる。最終的には樹勢が衰え枯死する場合もある。

(2) 寄主植物

国内ではカナリーヤシに被害が集中している。海外では、ココヤシ、デートヤシ、サゴヤシ等のヤシ類の害虫として知られている。

## 4 防除対策

(1) 成虫の捕殺及び寄生株の除去。

(2) ヤシオオオサゾウムシに適用のある薬剤

薬剤名	作物名	適用害虫名	希釈倍率	使用液量	使用時期	使用回数	使用方法
バイオセーフ	ヤシ	ヤシ材サゾウムシ	7500万頭(約30g)	25L	幼虫発生期	—	樹頂部に散布
スパイMC	ヤシ類	ヤシ材サゾウムシ成虫	50倍	5L/本	成虫発生初期	6回	樹頂部に散布 (葉柄基部直径1m)

薬剤名	作物名	適用害虫名	使用液量	使用時期	使用回数	使用方法
アトック液剤	ヤシ	ヤシ材サゾウムシ	幹材積1m <sup>3</sup> 当たり400~600ml	幼虫発生期	3回	樹幹注入



被害樹



加害痕



繭



繭と蛹



若齢幼虫



老熟幼虫



成虫



成虫

神奈川県農業技術センター  
 病害虫防除部  
 〒259-1204 平塚市上吉沢1617  
 TEL 0463-58-0333  
 FAX 0463-59-7411  
 テレホンサービス0463-58-6612